

ごあいさつ



人は、「時間の足し算」でできています。その人が、「今、どのような人であるか。」ということは、その人が、「今までに、どのような時間を積み重ねてきたか。」ということと密接に関わっているということです。残念ながら「引く」ことはできません。時間を元に戻すことは、誰にもできないからです。

しかし、「これからどのような時間を足していくか。」は、自分で決めることができます。「〇〇の練習を頑張る。」などが分かりやすい例ですが、そうしたことに限りません。例えば、「優しい人になりたい。」と思ったら、人に親切にする、優しい言葉をかけるなどの機会を増やせばよいですし、「笑顔が素敵な人になりたい。」と思ったら、意識をして、笑顔でいる時間を増やせばよいのです。もちろん、望んだとおりの結果が得られるとは限りません。それでも、「これから、何のために、どのように時間を使うか。」は、自分で選ぶことができるのです。「人生は何度でもやり直すことができる。」とは、実は、このことを言っています。

私たちのふるさとについても、同じことが言えます。私たちの目の前に広がっているふるさとの風景には、必ず人の営みが刻まれています。「手つかずの自然」が残されている所もありますが、そこにも、「残そう」、「守ろう」とする人々の営みがあります。つまり、私たちのふるさとの今の姿は、先人たちの、そして、私たちの「時間の足し算の結果」と言えるのです。私たちは周囲の環境と無縁では生きられません。どこに住むか。どこで何を買い、何を食べるか。どのようなことに楽しみや生きがいを見いだすか。そうした日々の選択の積み重ねが、ふるさとの、この国の、ひいては地球の未来の姿を形作っていくのだということを忘れてはいけないと思います。

さて、ここに「栃木県教育振興基本計画 2025」を策定し、本県教育が目指すべき方向を明らかにするとともに、今後5年間に取り組む施策を掲げました。現在、新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見えておらず、将来の展望を描きにくい状況にあります。このような中だからこそ、学校、家庭、地域が一体となり、子どもたちが「なりたい自分」を描き、その実現を目指して、着実に「時間の足し算」をしていけるよう育てるとともに、一人一人が「残したいふるさとの姿」を描き、世代や立場を超えて、ともに実現を目指していくことが、明日を生きる力につながると信じます。

今後は、本計画に基づき、市町教育委員会をはじめとする教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、とちぎの教育の更なる充実に努めて参ります。

結びに、本計画を策定するに当たり、貴重な提言を賜りました「次期栃木県教育振興基本計画懇談会」委員の皆様をはじめ、御意見をお寄せいただきました県民の方々に心から御礼申し上げます。

令和3(2021)年2月

栃木県教育委員会教育長 荒川 政利